

だれ一人しめ出さない社会へ——

◆第51回・筑豊民塾◆

「内に向かう問い、外に開く問い〜障害者たちから受け取ったもの」

アマガニスタンで凶弾に斃(たお)れた中村哲医師よ、かつて「なぜアマガニなのか？」と問われ、「たまたま目の前に溺れかかっている人がいた。そんな時、普通助けるでしょう」と答えたといふ。…そこで私は一人ここで、白い壁に話しかける。じゃあどうしてみんなが障害者問題に惹(ひ)かれなないのか？ これだけ身近にあっても手に触れることができる問題からどうして身を遠ざけようとするのか？ その属性によって自由だけでなく生命すら奪われる存在に、どうしてそんなに無関心でいられるのか？ 人間とは何かという根源的な問いを具体的に日常のこととしてせつ々提出してくれているのに、どうしてそれに向き合おうとしないのか？



小林敏昭さん

乾いた土地に広大な緑をよみがえらせることはできなかったが、私は自分の身の丈に合わせてそれらの問いに答えようとしてきた。もちろん長い年月の内には腹立たしいことも悲しいこともいっぱいあった。それでも、障害者問題は魅力的で人間の可能性がたぐさん詰まった宝庫だと思う。そこに足を踏み入れたいはもつたいない。(季刊『すく』⑦より)

■とき/2022年9月25日(日)、13:30~15:30 ■ところ/小竹町総合福祉センター(☎09496-2-2028)

■講師/小林敏昭さん(障害者問題資料センターリボン社代表。2017年に終刊した障害者問題総合誌『そよ風のように街に出よう』副編集長。現在は後継誌、季刊『すく』を発行。) ■参加費/無料 ※手話通訳あり。

■主催/NPO法人ちくほう共学舎「虫の家」(☎09496-2-6003)

*新型コロナウイルスの感染状況によっては、延期する場合があります。